

ほっかいどうの社会保障

2009年2月23日

北海道社会保障推進協議会

『SOSネット』街頭相談・ホットライン2日間で71件・カンパ9万475円 派遣切りや雇い止め、生活困難、住宅問題 多重債務など相談が相次ぐ！

20日の「SOSネット」（代表：肘井博行弁護士）街頭相談会には、61件、翌日のホットラインへの相談10件と71件の深刻な相談が寄せられました。

街頭相談会には、弁護士や司法書士、医師、道労連、生活と健康を守る会、社保協、新婦人、福祉保育労、いの健、建交労、道勤医協などから50人近くの相談員・支援者が集まりました。

相談内容は、労働相談が13件、法律相談8件、医療3件。（2件不明）電話での相談は16件ありました。

このほか地方からも旭川2件、小樽6件の報告がありました。



ソニーの下請けで派遣切り「昨日札幌にきた。住まいもお金もない」36才男性

愛知県のソニーの下請けで働いていたが1月31日で解雇。相談会のポスターを眺めているところに声をかけられて相談となりました。11月から人員整理が始まり、本人は「大丈夫」といわれ12月から3月まで契約を更新しました。しかし、突然12月末に人員削減されることになり、その後メールで、1月31日付で解雇が通知されたのです。2月15日には寮を出て、19日札幌に戻ってきました。家もなく所持金は19,000円ほど。

早速、市営住宅（派遣切りの場合、札幌市が用意）に入居手続きを行い、即、厚別区の団地入居が決まり、カギももらいました。また、3月末に失業保険が出るまでの間、生活資金が少ないことからその足で生活保護も申請しました。

労働相談を中心に電話相談16件

札幌近郊の57才の看護師は、足にケガをしていますが、働くことには問題ないのに「病気を理由に自主退職を迫られている」と相談。「どんなことがあっても退職を自分からいわないこと」を伝え、翌日ローカルユニオンへ相談にくることになりました。

大手ホームセンターで働く男性は、3月15日で契約を更新しないと雇い止めになると相談。離職表を持って職安で会社都合にしてもらうよう助言しました。

この会社は、3月には20人以上が雇い止めになるといわれています

雇用促進住宅に入るも生活費がない

自動車パーツの仕事をしていましたが、契約途中で解雇されました。横浜のハローワークに相談すると「雇用促進住宅は満員で入れない。北海道なら空きがある」と教えられ、2月16日に札幌に来て北区の雇用促進住宅に入居しました。

仕事もすくには見つからず、手持ち金が7,000円となり生活ができないと相談。すぐに、司法書士と守る会役員が同行して生活保護を申請。

「後期高齢者医療の資格証明書発行に関する陳情書」 後期高齢者医療北海道広域連合議会で否決！

北海道広域連合議会在が、2月20日に札幌市で開催されました。道社保協では議会に対して、『後期高齢者から医療を奪う資格証明書を発行しないよう国に意見書を提出して下さい』という陳情書を提出、吉岡事務局長が陳情の主旨説明を行いました。

日本共産党の中橋友子議員が賛成討論に立ちましたが、日本共産党と民主党議員の賛成以外は、討論もなく反対にまわり、否決されました。

国は、15歳以下の国保資格証明書を発行しないことを全会一致で決めましたが、反対した議員の「高齢者には資格証明書を発行しても構わない」という冷たい態度に怒りでいっぱいです。今後も、資格証明書発行を止めよの運動をすすめていきます。

最悪の天候のなか、人間らしく暮らしたい！！「社会保障予算増額を」2.21市民集会に2百余人が参加

集会では、第1部で生存権裁判原告のお母さん、重度の障害者を抱える家族、子どもを預けて非正規で働く女性、職員不足のなか懸命に働く助産師、少ない年金だけで生活する年金生活者、重税に苦しむ業者婦人などから告発とたたかいの決意が語られました。

第2部は、「希望は連帯」のテーマで北星大の木下武徳さんと北海学園大の川村雅則さんの対談。連帯と共同の大切さを確認し合いました。

